

センター紀要第2号の発刊にあたって

職業教育研究センター長 横山悦生

本センターが創設されてから1年8ヶ月が経過した。昨年12月23日には、本センター主催の第2回目のシンポジウムが開催された。「タイピスト養成の歴史から学ぶ」というテーマのもとで、4人のパネリスト（鈴木悦子、加藤達也、烏田直哉、高木久恵）から報告を受け、それを受けて討論がなされた。本誌には、その中から二つの報告（加藤報告と烏田報告）を掲載した。

本研究センターの研究部門は、昨年8月より2つの新しい研究部門（産業遺産研究部門と高等教育研究部門）が付け加わって、以下の6つの研究部門から構成されるようになった。

- (1) 職業教育の歴史・比較研究部門
- (2) 企業内教育研究部門
- (3) インターンシップ・キャリア教育研究部門
- (4) 教育福祉研究部門
- (5) 産業遺産研究部門
- (6) 高等教育研究部門

現在は各部門が共同して研究プロジェクトを組織し、科研費を申請している段階である。このセンターの研究員は他大学などの研究者にも開かれているので、興味のある方は共同研究員になっていただき、職業教育に関する共同研究を発展させたいと考えている。また、センターの研究紀要『職業教育学の探求』も毎年1回の発行を予定しており、この研究紀要への投稿も他大学の研究者などにも広く開かれたものとなっている。職業教育研究の一つの研究拠点を形成していけるよう取り組みをさらに進めたいと考えている。職業教育研究に関心のある多くの研究者とともに本研究センターが発展していくことを期待している。

